

めいわ社協だより

令和3年6月号

令和3年6月1日発行

社会福祉法人明和町社会福祉協議会
 (明和の里・ありんこ)
 三重県多気郡明和町大字馬之上917-1
 TEL 0596-52-7056
 FAX 0596-52-7057
<http://www.ma.mctv.ne.jp/~mei-skyo/>

★ 明和町内企業CSR紹介 ★

アイリス南郊株式会社 専務取締役 辻 光章氏

〒515-0302多気郡明和町大淀2229-1
 TEL 0596-55-8282 FAX 0596-55-8283
 本社所在地 松阪市山室町2358-11



CSR活動取材させて下さい!

うちの会社の活動を紹介して!
 地域の為に何かしたいと思っている!
 そんな企業担当者様、是非上記まで
 ご連絡ご相談下さい!

担当:山田・西中

障がい者雇用促進への試行錯誤

平成12年から介護事業に進出し、平成19年に介護付き有料老人ホーム「煌」を開設。以降、サービス付高齢者向け住宅「翔」「憩」等幅広く事業展開をされており、現在120名の職員のうち、障がいを抱えてみえる方を6名雇用されているアイリス南郊さん。今回は辻専務に多くの障がい者を雇用するに至ったその思いと、それにもとづく今後の事業展開などについてお話を伺いました。

初めて障がい者の方を雇用したのは、平成27年。当時、障害者雇用率未達成という事でハローワークからの指導を受けた事がきっかけだったそうです。

「人を育てる会社でなければならぬ」。社是とも言える現会長の日頃の言葉にも後押しされ、まずは精神に障がいを抱える方を1名、介護補助という形で雇用されました。その方の心身にとって負担の少ない時間帯で働いてもらったり、その方が何でも相談できる担当職員を付けたり、試行錯誤をしながらの始まりでした。当時は職員さんの戸惑いも大きかったそうです。そうした中で辻専務は、障がいを抱える職員に他の職員と同じ業務量とレベルを求めるのではなく、「この仕事はこの方でなければ困る」という状態を作ることに着目されました。いわゆる「業務の切り出し」です。ハンデを抱える方にとってバランスを求められる事は大変難しい事ですが、業務範囲は狭くてもその方にとって得意な業務を切り出す事で、周りの職員さんの負担は軽減され、ご本人の力もより発揮しやすくなるのではないかと。「働く環境」づくりにシフトチェンジをされました。

「人を育てる会社」であることが、「会社の成長」につながる

業務の切り出しを行う様になり、結果的に一人また一人と障がいを抱える方の雇用も進みました。雇用形態もその人の特性に応じて、正規、フルタイムパート、時間パートと分け、業務内容も介護業務専属の方も2名いらっしますが、そこに限定せず、調理補助や居室掃除担当、館内外の美化担当など、その方の持っている力に着目をして専門業務を任せる形を取ってみえます。

今回の取材で、特別支援学校から就職され現在2年目を

迎えた伊勢谷さんに直接お話しを伺う事ができました。伊勢谷さんは介護の仕事も行っており、居室の清掃業務を専門とされています。ご本人は謙遜されていましたが、辻専務曰く「彼の居室清掃は本当にきちっとしていて、現場職員も頼りにしている」との事。この仕事を続けながら自分の給料で新車を買う事が今の目標だそうです。

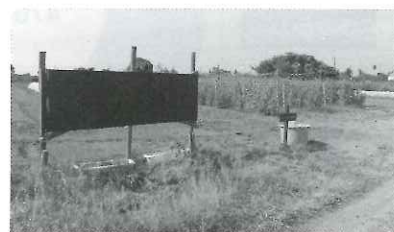


食事介助する伊勢谷さん

辻専務はこうおっしゃいます。「これまで食事や入浴など、その業務を回す事がどうしても職員の中での優先順位が高かったと思います。でも、障がいを抱える方と共に働く環境の中で、職員一人一人が彼らに物事一つ伝える上でも、どう伝えたら理解してもらいやすいか、どういう話し方をしたらお互い気持ちよく仕事ができるかを必然的に考えるようになりました。そんな中で、入居者さんへの接し方も又、業務を回す事だけでなく、入居者さんの思いに沿った接し方へと変わっていきました」。正に、「人が育つ事が会社の成長につながっている」。お話しを聞いてそう感じました。

10年先を見据えた企業としてのあり方

現在、アイリス南郊さんは障がいを抱える職員さんと共に農園も始めたそうです。その名も「かがやき農園」。耕作放棄地の増加や農業の高齢化が進む中で「農福連携」を見据えた取組です。「素人が見様見真似で始めました」と辻専務は笑っておっしゃいますが、昨年はお米8俵をネット販売した所すぐに完売。無農薬で育てたお野菜は入居者さんの食事に提供されています。10年後も元気で、そして障がいの有無に関わらず誰もがいきいきと働き続けられる明和町に寄与する企業でありたい。そんな思いを真摯に語っていただきました。



「かがやき農園」では農業指導をして下さる高齢者を探しています。

基本理念 みんなの地域をみんなでつくる

～一人ひとりそれぞれに役割があり 生きがいがある地域社会の実現～

今や全世界的な課題になっている新型コロナウイルス感染症の影響により、三つの『密』（密閉空間・密集場所・密接場面）の回避、人と人との一定の距離の確保など、『新しい生活様式』の定着が推奨され、人と人とが互いに接触する機会を減らすことを求められるようになりました。これまで地域福祉活動やボランティア・市民活動に取り組んできた方々は活動の自粛を余儀なくされ、地域住民の社会的孤立の深刻さ等が増しています。また、今回の新型コロナウイルス感染症の影響がある以前から、経済的に困窮または苦しい家計状況であった家庭が、経済活動が停止されたことによる減収や失業により、日常生活にも困る状態に陥るなど、これまで埋もれていた課題が顕在化しています。

このようなコロナ禍にあっても誰かとつながっていること、誰かを支えたり支えられたりしていることを大切に、人々が日常生活を送るために欠かせない仕事である「福祉」を担っている本会は、その社会的役割の重要性を再確認しています。孤立してしまったり、生活が困窮したりした人たちと新たな繋がりを模索し、更なる地域福祉の推進をはかり、本年度事業に積極的に取り組みます。

令和3年度事業実施計画

◎子ども見守り支援事業

要保護児童対策地域協議会の支援対象児童等として登録されている子どもの居宅を訪問するなどし、状況の把握や食事の提供等を通じた子どもの見守り体制を強化することを目的とします。

週1回「つどい子ども食堂」と障がい者福祉サービス事業所「ありんこ」が協力して作った御弁当を、支援員により配達し生活の様子等を確認、見守ります。



◎OBENTO PROJECT事業

「子ども見守り支援事業」に登録されている子ども以外の家族やその他経済的に困窮または、苦しい家計状況である家庭を支援するため、地元企業や地域住民の皆様が子どもたちを寄附金や寄附食材などで支えたいという気持ちと、地元企業や地域住民の皆様の仕事の提供を通じて支えられた「ありんこ」が、今度は自分たちが仕事で地域貢献したいという気持ち、「地域交流の拠点」として地元で頑張っている「つどい子ども食堂」の皆様が、困っている子ども家庭に手作りのお弁当を届ける活動で支えたいという気持ちとが新たに出会い、この活動が生まれました。



令和3年度 収支予算

(単位:千円)

